

第 6 回中学校におけるこれからの部活動の 在り方を考える有識者会議 議事要旨

日 時：令和 8 年 7 月 28 日（火曜日） 午前 10 時から正午まで

会 場：東京都庁第二本庁舎 31 階特別会議室 27

出席委員：10 名（代理出席 2 名）

1 開会

東京都教育委員会挨拶

- ・第 5 回の有識者会議では、推進計画の成果指標の内容に関して、設問の妥当性、判断の示し方、対象や分析の方法等について定量的に測る部分以外に、分析のために必要な補完設問を設けるべきである等の非常に建設的な御意見・御提案を数多くいただいた。
- ・今回は、各自治体へ示す「東京モデル」の成果を適切に評価するための質問項目及び成果指標の案について、皆様の活発な議論を期待したい。

2 概要説明

- (1) 「第 5 回有識者会議の推進計画における成果指標の設定について」の主な意見について
- (2) 「東京都における中学校の部活動改革に関する推進計画（改訂版）」（案）について
- (3) 成果指標に関する「未来へ つなぐ 部活動改革 アンケート項目（案）」について
- (4) 令和 8 年度の実施について
- (5) 協議のテーマと論点について

3 協議

協議テーマ

「推進計画における成果指標の設定について」-東京モデルの実施を着実に前進させていくために-

1 「東京都における中学校の部活動改革に関する推進計画（改訂版）」（案）

① 成果指標の設定

- ・子供の満足度は元々数値が高いので、なかなか難しいと感じる。今後、やはり 3 年から 6 年かけて、選択肢が広がっていくと思うので、その満足度に関しましては、まず 90%からという部分で、それからさらに増やしていくという部分の方向性はよい。

- ・環境が整備されていない状況の中で無理に進めることがないように、地域展開が何パーセント達成したから良い・悪いではなく、子供たちも指導者も「やってよかった」という幸せな気持ちが得られるような展開になって欲しい。
- ・選択肢の設問で、「選択肢がある」という回答が 70%となっているが、指導者や団体は急激に増えることはなく、様々な取組の中で関わったり、出来上がったりしていく。選択肢については、昨年度の 67.6%から微増ではあるが、徐々に増加させるこの方向性でいい。
- ・教員の満足度については、やりがいを感じながら部活動の指導や運営に携わっている教員の満足度も大切だが、積極的に携わりたくない教員もいる。こうした教員が携わらなくてもよくなった満足度というものもあると思うため、全体の満足度としては 45%から徐々に増加させていく方向性でよい。
- ・地域展開をした際に、保護者に費用負担が出てきてしまうことを考える必要がある。保護者への質問項目の中で、費用負担に対する負担感、あるいはどの程度なら負担が可能かという調査をする必要があると考える。経済格差が体験格差に繋がってはならない。
- ・部活動に対する従事時間について、部活動に従事したいという教員も一定数いる状況の中で、「減った」の回答に対して設定する目標値はなかなか難しい。昨年度「週 5 時間以上従事している教員が 57.3%」の結果から想定して、従事時間が減ったと回答する教員の割合は最終的に 60%から 75%程度の数値になると思うが、仮に地域展開したとしても携わりたいとか、部活動に、地域クラブ活動に対する思いを持つ教員も 30%程度はいると思う。そのように積極的に関わっている教員がいることも考えると、もしかしたら 70%ぐらいが上限であるように思う。
- ・地域展開や外部人材の活用を導入できるわけではないので、教員の負担が減ったと実感するのは時間がかかると思う。そのため、負担軽減に対する目標値が今年度 30%となっており低く感じるが、徐々に増えていけばよいと考える。

② 分析的な評価

- ・代表値としての KPI を置きつつ、補完設問を加えていくことは、評価の信頼性を高める意味でも重要である。子供たちが求めているもの、教育的意義の部分の何を得たいと思っているのかを見ていくことで、教育的意義の継承・発展をした部分も見ることができると考える。
- ・活動の選択肢が広がるという意味で YAT の活動は非常に意義があるものであり、活動を選んだ理由についても確認ができるようになっていく方向性はよい。
- ・補完設問として、教員が配置された部活動の専門性の有無を見られるように追加をされている点は非常に大きい。現状、専門性はあまりないが、配置上その部活動を指導しなければいけない教員もいるため、そこから出てくる数値をしっかりと見ていく必要がある。

- ・教員の部活動に関わる時間が減ることは良いが、それが学校教育の質の向上につながっているかどうか大事な視点であるとする。負担軽減によって生み出された時間で、授業や学校行事の準備にも携われるようになったか、育児や介護といった家庭の時間が増えたかななどを補完設問で見ることが出来る方向性はよい。
- ・運動部、文化部いずれも大会運営がある。そのことも満足度あるいは負担感で聞く方向性はよい。

2 成果指標に関する「未来へつなぐ部活動改革アンケート項目（案）」

③ 主設問の内容

- ・地区によって地域展開等の取組状況が異なっているため、地区の学校規模の割合で抽出をして、東京モデルに着手している学校部活動と未着手の学校部活動を抽出する。その抽出校については、区市町村が選べるようにしていただけるとありがたい。
- ・抽出した結果、学校に偏りがあってはいけない。東京都が抽出校を例示してくれると、選びやすく全体としても偏りがなくなるのではないかと。また、部活動改革について詳しい教員もいれば、新規採用教員もいるため、地域クラブ活動、拠点化、外部人材の活用等について説明が必要である。
- ・抽出校を選ぶ際には、取組が充実している学校を選ぶだけでなく、苦戦している学校の両方を選ぶのがよい。区市町村が一番実態を把握されていると思うので、うまくバランスをとって決めていただけるとよい。
- ・生徒の対象が中学2年生というのは、下の年代が入っている場合は、集団での活動を意識する充実した時期でもあり、適していると思う。また、設問についても、子供と保護者で内容的には同じものでもいいと考える。子供から見る視点と親から見る視点は、若干違っていてもおかしくはない。それぞれの視点での違いという部分を把握することができてよい。
- ・特別支援学校では、基本的な質問内容をベースとした上で、答えやすい内容にしていく配慮が必要であるとする。全体の方向性はよい。
- ・生徒と保護者の最後の設問で「地域展開することを知っていますか」とあるが、生徒・保護者の中には地域展開を分かっていない方もいる。例えば、「国はこういう地域展開をすることを示しています」、「東京都ではこういう取組をしていますが、御存知ですか」のように聞いた方が適切であるように思う。

④ 補完設問の内容

- ・教員や指導者の満足度の回答理由について、補完設問を活用して指導、運営、大会運営との関わりが確認できるため、今後の支援をどのようにすべきか見えてくると考える。
- ・保護者が負担に感じる内容の選択肢に、活動に係る費用があるのはよい。教員についても、道具管理費や楽器購入等の負担は大きい。「施設や道具の管理」という選択肢の書き表し方がより具体的になると更によいと感じた。
- ・教員の中には、平日に自校の生徒と一緒に活動するのは負担ではないが、土日に出勤する、自校の生徒が関係のない大会運営に携わるのは負担だと感じる教員もいる。補完設問を通じて、分けて確認ができるため、分かりやすい。

3 令和9年度の取組の検討について

⑤ 「東京モデル」の推進

- ・文化部に関してだが、入部する子供たちが減っている状況がある。演劇部、合唱部や美術部については、部員数が減っている。そういった意味で、YATのような機会があることは非常によい。
- ・YAT について、会場の配慮やオンラインプログラムの実施等で幅広い参加機会を設けている素晴らしい取組であると考えます。
- ・YAT について、16 種目の内容がとてもよい。学校ではできない、例えば声優のような活動も入っているので、それが入り口になって、将来の自分の生き方が広がっていく生徒もいると考える。
- ・YAT について、部活動にはない活動を都が創出したことの意義は大きい。今後、部活動の地域展開の一つの柱となり得る取組である。また、認定地域クラブ活動の指導者に対する研修について、区市町村で実施するのは難しい。研修を実施する場合については、都が研修資料を作成していただくと統一もなされてよい。
- ・大学側の取組として、研修を作成するというものがあつた。これは連携大学として、有している専門性を大いに発揮して、協力していきたい。
- ・保護者として安心感を持つということで、やはり研修制度が確立されていくことは重要である。今までは、先生がやっているという部分で安心感があつたが、外部の方に関しても同じような形で子供たちに対する接し方を理解してもらうという部分に関して、研修制度は大切である。
- ・地域展開を広げていくことと言えば、費用面に対する補助は拡充をしていただくとありがたい。また、地域展開の費用を少しでも軽減していくためには、外部人材の活用とのバランスも考えていかなければいけない。そのため、外部人材の活用に関する費用についても引続き補助をしていただきたい。

- ・地域展開等を進める上で、外部と連携をとる時に教員の業務量が増えることが心配である。そのため、部活動の地域展開等に関して専門的に色々な調整を図るコーディネーターの存在は重要である。
- ・部活動指導員や外部指導者を見付けるのが大変である。学校が独自に探すケースが一番多いと思うが、TEPRO の人材バンクのような登録制度もあるので、それがもっと広がっていくとよい。

(3) 協議のまとめ（松尾座長）

- ・部活動が地域展開になった際に大切なのは、子供たちの地域での活動を、学校と地域の方が一緒になって支えてくださることで、新しい価値、力が付くということである。その価値をどのように測るのが重要である。
- ・児童・生徒の多様なニーズに応える YAT の試行実施に期待している。
- ・認定地域クラブ活動への支援として、研修や理解促進を進める必要がある。部活動の価値をしっかりと押さえて地域クラブ活動に取り組んでもらうためにも、研修を実施する必要がある。

4 事務連絡

今後について

- ・第 7 回の有識者会議の開催について

5 閉会

東京都教育委員会挨拶

- ・成果指標における数値目標の妥当性や、数値化できない定性的な成果をどう評価するかについて多角的かつ示唆に富んだ御意見を数多く頂戴した。
- ・次回の有識者会議は 2 月に開催予定である。成果指標に関わる状況がどのようなものであったかを御確認いただきたいと考えている。
- ・「東京モデル」を通じて、生徒の満足度の維持・向上及び教員の働き方改革の両立を目指したいと考える。